

西原の変遷

最近、よく市町村合併の話が耳にしますが、みなさんは西原町の歴史をご存知でしょうか。

島津侵攻後、統治のため行われた土地測量時（十七世紀中頃）の資料によると、西原町は、**西原間切**というひとつの行政区だったようです。当時は、那覇の泊や天久・勝連町・津堅島までもが**西原間切**に属していました。その後、琉球王府を中心とした身分制度が確立すると、士族らへ知行（領地）を割り当てるため、間切の新設や区分の変更、村（現・字）の新設・分立・移動が行われました。西原間切だった泊も、士族の住宅地として開発され、分離独立したようです。また、津堅島は勝連間切へ、天久・銘苅・安謝は真和志間切へ編入されています。

明治時代になると、廃藩置県後の明治四一年に、**西原村**が誕生します。この前後に、儀保・末吉・平良・石嶺は那覇に編入され、現在の西原町の区域がほぼ確定されます（昭和五四年に町制を施行）。西

原町はだいぶ小さくなってしまったんですね。

沖縄戦後、琉球政府は、市町村規模の適正化、地方財政の合理化と行政効率の向上を目標とした「市町村合併促進法（時限法）」を施行しました（日本本土では昭和の大合併が展開）。それにより、那覇市と真和志市、糸満町と兼城・高嶺・三和村、石垣市と大浜町、名護町と屋部・羽地・屋我地・久志村が合併し、それぞれ那覇市、糸満市、石垣市、名護市が誕生してこの法律による合併が終了します。その後、合併の特例に関する法律に基づき、コザ市と美里村が合併して沖縄市となりました。

行政区画の変遷をみてみると、その要因はひとことでは語れませんが、統治する側・領地を割り当てられる側・地方の行財政を運営する側、またその反対側にいる人々をどのような事象がとりまいていたのでしょうか。また、それが誰のため、何のために行われてきたのでしょうか。今また考える時期にきているのかもしれません。